

## 目指せ!なのはな米1等比率95%以上継続!! ~「R4 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

- 高温登熟を回避するため、「コシヒカリ」の田植えは、5月15日を中心に行いましょう。
- 4月下旬以降は気温の高い日が多くなります。育苗ハウスは換気を徹底し、がちり苗に仕上げましょう。
- 基肥は、土壌条件に応じた施肥量となるよう調整し、必ず落下量を確認して施用しましょう。
- 気温の上昇に伴い雑草の発生が早くなっています。除草剤は遅れず適期に散布しましょう。

### 1 硬化期の育苗管理

- ・日中の育苗ハウス内の温度が25℃以下になるよう、換気を徹底しましょう。
- ・かん水は、床土の乾きに応じて、的確に行いましょう。  
(育苗培土の種類により乾き具合が異なるので注意!)
- ・田植えの7~10日前からは夜間もハウスを開け、外気にならしましょう。

#### 【育苗期間中の温度管理の目安】

ステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日 (3日)	2~3日 (3~4日)	13~15日 (15~20日)
温度	昼	30℃	<b>25℃以下</b>
	夜	30℃	10℃以上

注) カッコ内は4月上旬に播種した場合

天気予報が晴れなら  
**早朝から換気!**



### 2 本田準備

- ・田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、等の問題が生じます。耕起・代かきは丁寧に行い、ほ場の均平に努めましょう。
- ・耕起は過湿状態で行うとトラクタが沈んだり、耕深が不均一になりやすいため、できるだけほ場が乾いた状態で行いましょう。
- ・ヒエ等の雑草の発生を抑えるため、代かきは田植予定日の3~5日前に実施しましょう。
- ・代かきは少なめの水で行って稲わら等の埋没に努め、代かき後の濁り水を用水に流さないよう注意しましょう。

### 3 基肥量の調整

★田植前に必ず基肥量を調整しましょう。

- ・品種やほ場条件に応じた基肥量になるよう適切な施肥設計を行いましょう。
- ・田植作業の前に必ず田植機の点検・清掃や調節を行いましょう。特に、前年、基肥一発肥料が余った(注文数量より使用量が少ない)場合は、田植機の施肥部分の開度を確認し、基準量が確実に施用されるように調節しましょう。
- ・田植作業の最初の田では、肥料使用量と田面積から施用量を算出し、基準どおりの施用量か確認しましょう。

#### 【基肥設計例 (品種:コシヒカリ、10a当たり)】

土質	肥効調節型基肥	分施					
	側条施肥	側条施肥		全層施肥			
	基肥一発肥料	設計 I	設計 II	設計 I		設計 II	
		なのはな有機基肥	基肥555	なのはな有機基肥		基肥555	
				基肥	早期追肥 (田植後7日)	基肥	早期追肥 (田植後7日)
砂質田	Jコートコシヒカリ1号 40kg	35kg	30kg	30kg	10kg	25kg	10kg
壤質田	Jコートコシヒカリ2号 35kg	30kg	25kg	25kg	10kg	20kg	10kg
粘質田	Jコートコシヒカリ2号 30kg	25kg	20kg	20kg	10kg	15kg	10kg

※大豆跡田は、基肥量を5~7割減らす、または倒伏に強い品種の作付けに努めましょう。また、土壌改良資材を必ず施用しましょう。

### 4 苗箱施薬による病害虫防除

★苗箱施薬は規定量を確実に入れましょう。

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
ブーンレパード箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	いもち病、 <b>紋枯病</b> 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ(白葉枯病、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ)※	1回
箱大臣粒剤	50g/箱	移植7日前~移植当日	いもち病、白葉枯病、 <b>紋枯病</b> 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	1回

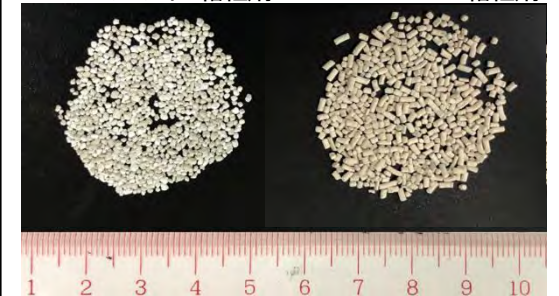
※ブーンレパード箱粒剤の( )内は移植当日のみ

- ・水稻育苗後にハウス内で野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は必ず育苗ハウスの外で散布してください(ポジティブリスト対応)。
- ・高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて薬剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50~100gまでの範囲で調整してください。

今年度新規に採用した「**ブーンレパード箱粒剤**」は、これまでの「エバーゴールド箱粒剤」と粒径等が異なります。播種時や移植時に施用する際には、施薬機の調整ダイヤルを必ず確認してください。

令和3年まで  
エバーゴールド箱粒剤

令和4年  
ブーンレパード箱粒剤



裏面へ続く

## 5 田植えと水管理

- ・コシヒカリの田植えは5月15日を中心とし、22日頃までに終わらしましょう。
- ・栽植密度は70株/坪・植付本数は3~4本/株、植付深さは3cm程度の浅植え（第1葉がみえる程度）を励行しましょう。
- ・前年度、収量が少なかった場合、栽植株数を増やしましょう。株数を増やすことにより穂数の確保につながり、天候が不安定な年も、より安定して品質と収量が確保できます。
- ・田植え直後は水没しない程度のやや深水とし、苗を保護しましょう。
- ・活着後は田面が露出しない程度の浅水とし、早朝入水・昼間止水で田水温が高くなるように努め、初期分げつの発生を促しましょう。

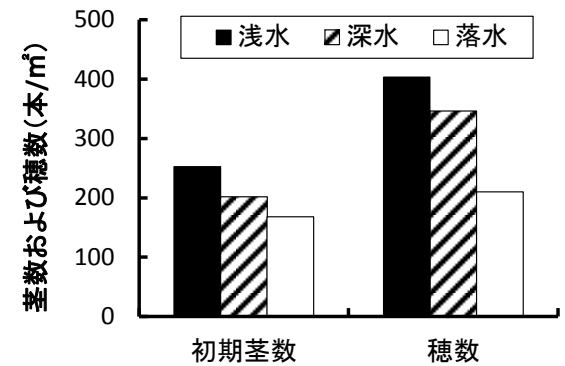
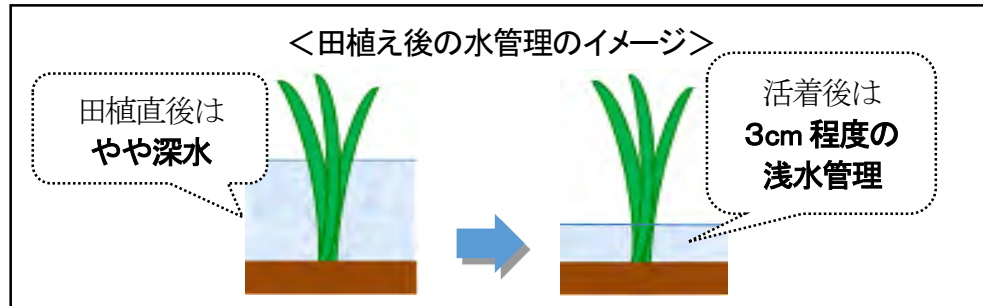


図 初期の水管理が初期茎数および穂数に及ぼす影響 (H24 農研) 注) 初期茎数：移植後20日目の茎数

## 6 除草剤の散布

- ・除草剤の散布は遅れずに、適期に行いましょう。また、強風時の散布は避けましょう。

### ■雑草防除体系 ~ 農薬は使用基準を守り、正しく使いましょう! ~

区分	代かき	田植え	5日	10日	15日	20日	25日	30日
体系処理	粒剤	田植時~ノビエ1. 0葉期(田植後5日頃)	メテオ1キロ粒剤	クラール1キロ粒剤				
		田植後3日~ノビエ1. 0葉期(田植後5日頃)	マーシエット	1キロ粒剤				
		田植後15日~ノビエ3. 0葉期(田植後25日頃)	サンパンチ	1キロ粒剤	散布適期(田植後20~25日)			
体系的な使用例	粒剤・液剤	田植時~ノビエ1. 5葉期(田植後7日頃)	ヨシキタ	1キロ粒剤	散布適期(田植後3~5日)			
		田植時~ノビエ2. 5葉期(田植後13日頃)	アピログロウMX1キロ粒剤	エンペラー1キロ粒剤	シグナス1キロ粒剤	散布適期(田植後3~12日)		
		田植時~ノビエ2. 0葉期(田植後11日頃)	アールタイプ	1キロ粒剤	散布適期(田植後3~10日)			
一発処理	ジャンボ剤他	田植直後~ノビエ1. 0葉期(田植後5日頃)	メテオジャンボ					
		田植後5日~ノビエ2. 0葉期(田植後11日頃)	ゼータファイヤ	1キロ粒剤	散布適期(田植後7~10日)			
		田植後3日~ノビエ2. 0葉期(田植後11日頃)	アールタイプ	フロアブル	散布適期(田植後3~10日)			
体系的な使用例	ジャンボ剤他	田植直後~ノビエ2. 5葉期(田植後13日頃)	エンペラージャンボ	エンペラー豆つぶ250	散布適期(田植後3~12日)			
		田植後3日~ノビエ2. 5葉期(田植後13日頃)	アピログロウMX	ジャンボ	散布適期(田植後5~12日)			
		田植後5日~ノビエ2. 0葉期(田植後11日頃)	ゼータファイヤ	ジャンボ	散布適期(田植後5~10日)			

### <除草剤の効果を高める7つのポイント>

- ①代かきは丁寧にいき、ほ場の均平に努める。
- ②代かきから田植えまでの期間を長くしないようにする。
- ③代かき後に気温が高いと、雑草の発生・生育が早まるので、遅れずに散布する。
- ④湛水状態で散布する場合は、水の出入りを止め、5cm程度の湛水深を保ち散布する。
- ⑤除草剤の散布後は、4~5日間程度湛水状態を保つ(水漏れ防止のため、しっかり「畦づくり」をする)。
- ⑥散布後7日間は「落水」や「かけ流し」をしない「止水管理」とし、水田外への流出を防ぐ。
- ⑦田植同時散布機(こまきちゃん等)を使用する場合は、薬剤によって粒径や比重が異なるので、散布量の調整を必ず行い、適量を散布する。

★なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています★

<情報提供内容>

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報や災害防止対策、栽培管理情報
- ・その他必要と思われる情報

★営農情報提供サービスへの登録はこちらから



※農耕車等で道路を走行後、泥落ちした場合は、泥の撤去をお願いいたします。

春の農作業安全運動実施中  
(4/1 ~ 5/31)